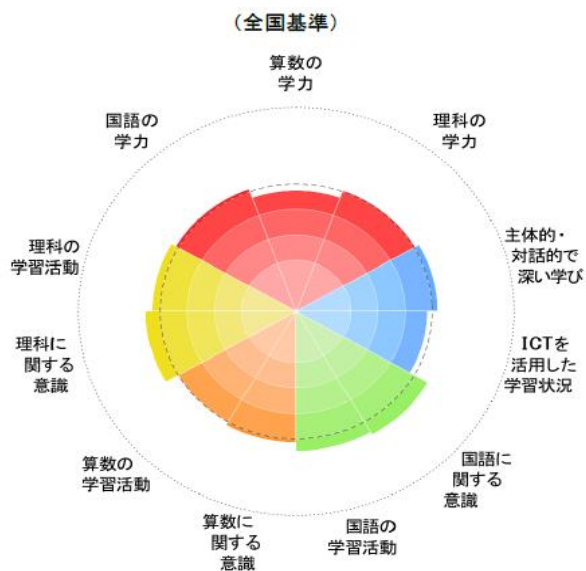


令和7年度 全国学力・学習状況調査における筑西市内小学校等の結果について

1 教科を中心とした学力・学習状況



【国語の学力・学習状況について】

◇図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することはできている。

◆目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることに課題がある。

→ 今後は、文章の要旨を捉えた上で、図表などが文章のどの部分と結び付くのかを明らかにしながら、必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりすることに取り組んでいく。

【算数の学力・学習状況について】

◇角の大きさについて理解することはできている。

◆示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算することに課題がある。

→ 今後は、問題を解決するために、示された資料から、必要な情報を選ぶ指導、数量の関係を式に表す指導をていねいに行うとともに、四則の混合した式について、計算の順序のきまりを理解し、正しく計算できるようにすることに取り組んでいく。

【理科の学力・学習状況について】

◇電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることを理解することはできている。

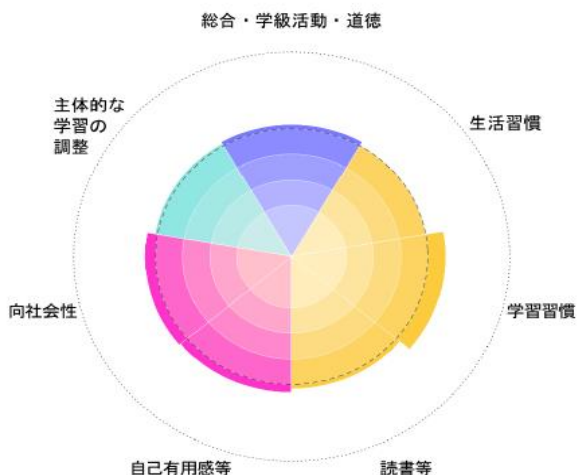
◆身の回りの金属について、電気を通す物や磁石に引き付けられる物に関する知識が身に付いていないことが課題である。

→ 今後は、「磁石の性質」と「電気の通り道」の単元において、観察・実験を通して、鉄、アルミニウム、ガラス、木など、それぞれの内容で習得した知識を物ごとに整理し、まとめるなどして、物質の性質について理解を深めていく。

【ICTを活用した学習状況について】

5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を「ほぼ毎日」活用したと回答した児童の割合は43.0%で、全国平均を3.7ポイント下回った。また、5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用して、分からないことがあった時に、すぐ調べることができるという児童の割合は46.9%で、全国平均を6.1ポイント下回るなど、授業におけるICT機器の活用依然として課題があることが明らかとなった。今後は、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のため、各教科等の指導におけるICT機器の効果的な活用に向けていく。

2 その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）



【生活習慣について】

「朝食を毎日食べている」、「毎日、同じくらいの時刻に起きている」と回答した児童の割合は、それぞれ83.5%、55.4%であり、全国平均とほぼ同じであった。生活リズムを整えて規則正しい生活を送ると、心身ともに安定した状態を保つことができ、その結果、頭の回転が活発になり、勉強に集中できるようになるので、学校が休みの日もいつもと変わらない時間に起きて朝食が食べられるよう、家庭でもご協力願います。

【学習習慣について】

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1時間以上勉強している（30分以上タブレットなどのICT機器を勉強のために使っている）と回答した児童の割合は57.6%（53.5%）で、全国平均を上回った。今後は、家庭学習においても「指導の個別化」と「学習の個性化」の両方を意識し、デジタルドリルなどを効果的に活用した学習を一層推進していくことで、個々の学力の向上に努めていく。

【自己有用感等について】

「将来の夢や目標を持っている」、「人の役に立つ人間になりたいと思う」児童が、全国や県よりも多い傾向にあった。これからも、児童一人一人の可能性を最大限に引き出し、社会への貢献を目指す教育の充実に努めていく。また、自分と違う意見について考えるのは楽しいと回答した児童の割合は32.9%だった。今後は、自分の考えを発表したり、議論したりする場を意図的に設定し、多様な考えや価値観について考え、理解できるようにしていく。

【読書等について】

「読書は好き」と回答した児童の割合は33.8%で、全国平均を2.6ポイント下回った。これからも児童生徒の読書意欲を喚起し、読書活動の推進を図るとともに、児童の国語力を育成し、心の教育の充実に努めていく。